

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	
佐藤 和宏 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：昭和史の決定的瞬間</p>	<p>生きる気力がないとき、いったん日常のスイッチを切ります。古本屋に行って、興味がある古本を手にとってには棚に戻します。たいていそういう時、私は父親譲りの——そうであるがゆえに父からは「俺みたいになるな」との思いを込めて注意を受け続けてきた——猫背をいっそう丸めて、「うんうん、うんうん」とつぶやいています。</p>
<p>著者：坂野 潤治</p> <p>出版社：筑摩書房</p> <p>ISBN：9784480061577</p>	<p>近所の古本屋で、たまたま見つけました。個人的にセンセーショナルなタイトルは好きではありません（「強い主張は薄い中身ゆえ」との偏見が、私にはあります）。しかし読み始めたら、自分が多少なりとも学んできた日中戦争までの歴史および民主主義の可能性が、否定はされないまでも、かなりの程度修正を迫るものだと分かりました。おもしろすぎて腰を抜かすかと思いましたが、ただ、私は座りながら本を読むタイプだったので、腰を抜かしませんでした。</p>
<p>② 図書名：世界一やさしい依存症入門——やめられないのは誰かのせい？</p>	<p>あなたはなぜ学ぶのでしょうか。民主主義が問われたまさにその時、「民主主義ってなんだ」とのコールが国会前で叫ばれていたように、私は、私自身に、そして学生みなさんに、しつこいくらい「なぜ学ぶのか」を訊きます。その問いこそが学びのアイデンティティであり、学びにとっての固有値であると考えからである。</p>
<p>著者：松本 俊彦</p> <p>出版社：河出書房新社</p> <p>ISBN：9784309617343</p>	<p>私は、すべての学生が勉強を好きになるべきだとも、勉強をすべきだとも思いません。大人なのだから、何に時間を使うかは、自分で決めるべきです。それでも、自分の経験や自分の身近で、言語化しがたい／しにくい現象や行為が、言語化しようという欲求と結びついた時、その学びは、血肉となっていくと感じています。モヤモヤを大事にしたい、そう思う方へおススメです。</p>
<p>③ 図書名：女子をこじらせて</p>	<p>人付き合いを大事にしない人間ゆえ、生きているうちに一度でも会っておきたいと思う人は、2人しかいません。オードリー若林と雨宮まみさんでしたが、もう会えません。なぜ会いたかったのか、この一文を読んだからです。</p>
<p>著者：雨宮 まみ</p> <p>出版社：ポット出版</p> <p>ISBN：9784780801729</p>	<p>「私は「女に生まれなければよかった」と思ってるわけじゃない。女に生まれてよかったと思ってるのに「女なんか生まれなければよかった」と思わされている。この状況に腹が立つのだ、と思いました。」</p> <p>なぜ「だ・である調」を基軸とする文章が一般的ながら、今年のおすすめ図書を「ですます調」にしたのでしょうか。それは雨宮まみさんの文体およびご本人へのリスペクトゆえです。ここまで読んだ人、本の中身も説明しねえし、なんだこの文章って、そう思ったでしょ。後悔したか、どうははははははははは</p>